

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル 1：活火山であることに留意）が継続＞

13 日 15 時頃から、規模の小さな地震が増加しています。その他のデータには特段の異常は認められません。

雌阿寒岳では直ちに噴火に至る兆候は認められませんが、全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下では、2015 年 3 月中旬以降熱活動が活発化している可能性があります。今後の火山活動の推移に注意してください。

○活動概況

・地震の発生状況等（図 1～4）

13 日 15 時頃から、ポンマチネシリ火口付近のやや深いところを震源とする地震が増加しています。地震の規模は小さく、火山性微動は観測されていません。2006 年や 2008 年の噴火前の地震増加の際にみられた、低周波地震の増加や、震源が深い所から浅い所へ移動するといった現象は観測されず、地震回数は上記の活動と比較して少ない状況です。今回の活動は、微小な地震がほとんどであり、4 月の地震増加時と比較すると、地震活動の規模は小さいと考えられます。

なお、地殻変動や、遠望カメラによる火口付近の状況に特段の変化は認められませんでした。

・ポンマチネシリ 96-1 火口周辺の全磁力の状況（図 5）

ポンマチネシリ 96-1 火口南側で実施している全磁力連続観測¹⁾によると、全磁力は 2014 年 3 月以降概ね横ばいで推移していましたが、2015 年 3 月中旬以降は減少傾向を示しています。このことから、ポンマチネシリ 96-1 火口近傍の地下では、2015 年 3 月中旬以降熱活動が活発化している可能性があります。

- 1) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定されます。



図 1 雌阿寒岳 南東側から見た山体の状況

（7 月 13 日、18 時 17 分上徹別遠望カメラによる）

・ 7 月 13 日 20 時 30 分から雲のため詳細は不明

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10m メッシュ（火山標高）』及び『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 26 情使、第 578 号）。

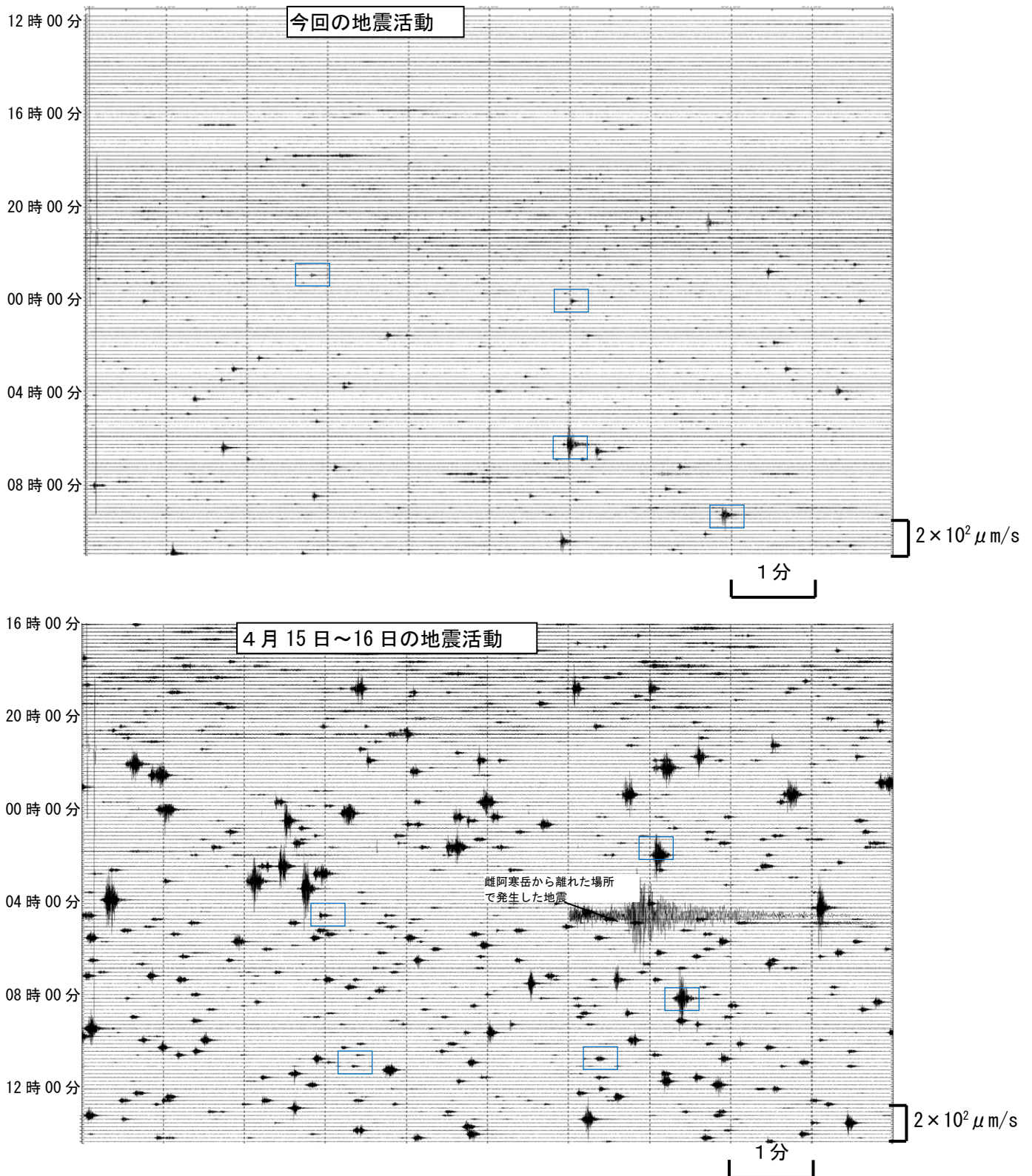


図 2 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況

（上：7月13日12時～14日12時 下：4月15日16時～16日16時）

- ・ オンネトー南東（山麓の観測点）による速度波形
- ・ 地震回数：13日82回、14日12時まで75回（暫定値）
- ・ 四角で囲った振動は火山性地震を示しており、同様の振動は全て火山性地震です

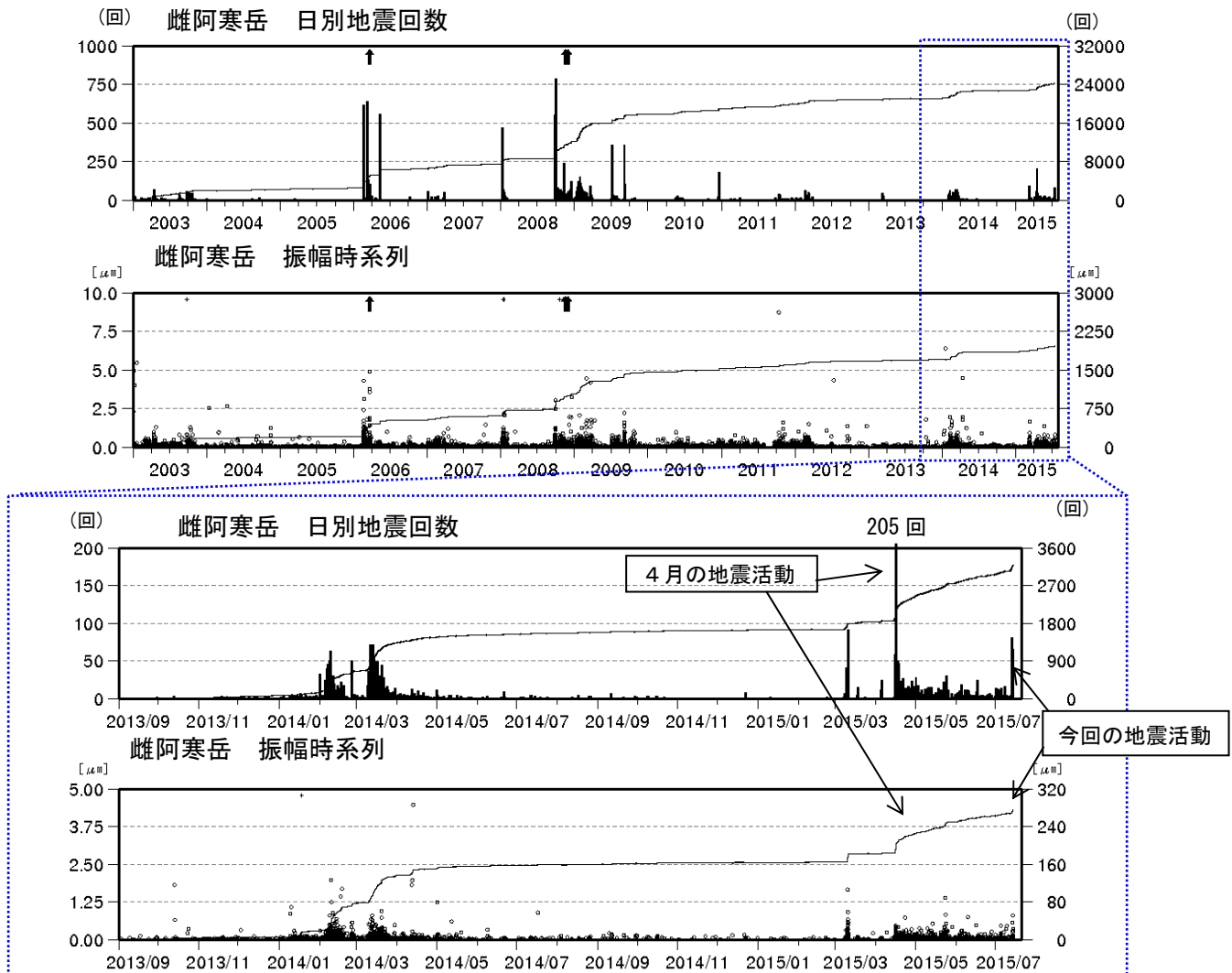


図3 雌阿寒岳 日別地震回数及び振幅時系列 上図：2003年1月1日～2015年7月14日12時
下図：2013年9月1日～2015年7月14日12時

- ・ 計数基準：オンネトー南東で $0.05 \mu\text{m}$ 以上、S-P時間2秒以内の火山性地震です
 - ・ 黒線は積算回数及び振幅積算を示します
 - ・ ↑はごく小規模な噴火の発生を示します
 - ・ +は振幅が振り切れた地震を表示しています。

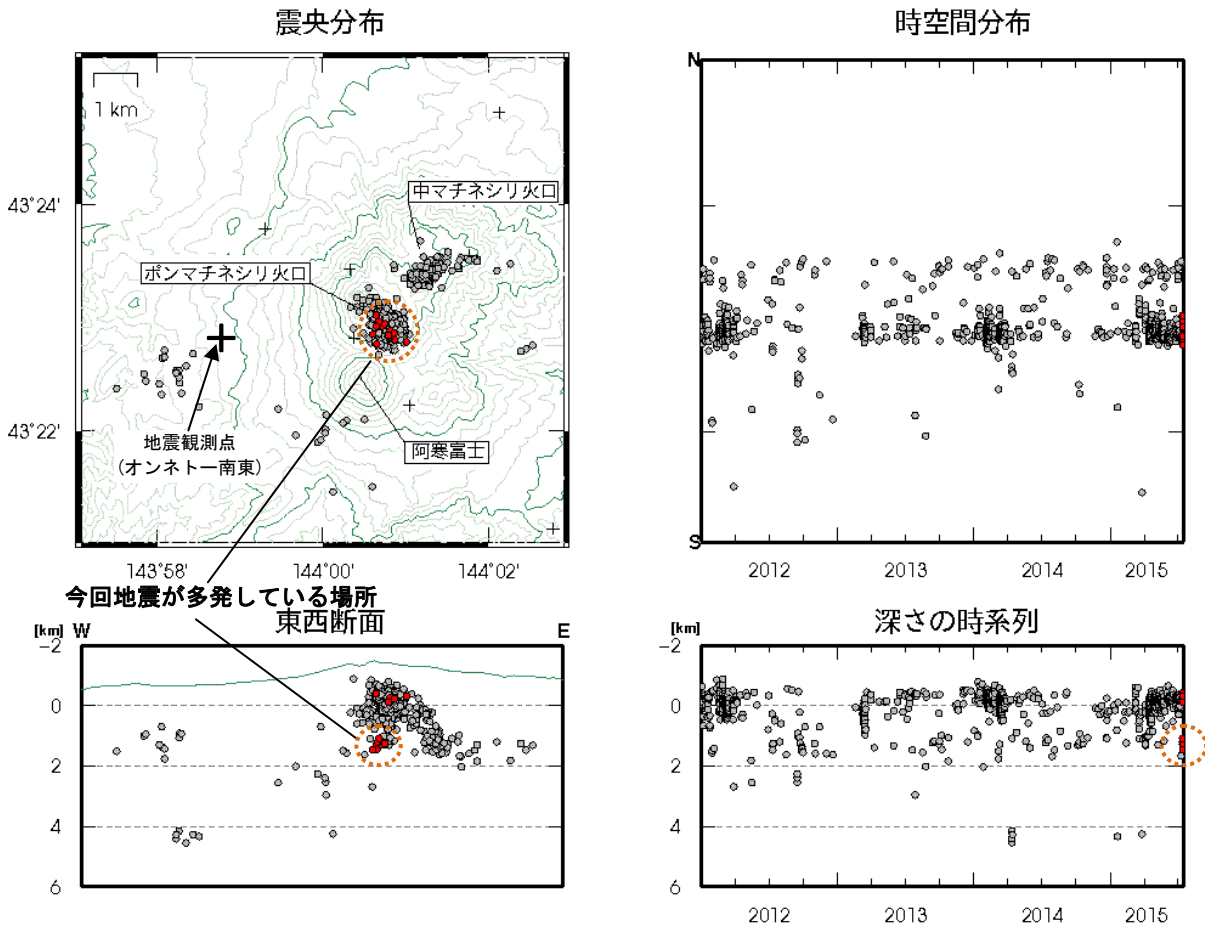


図4 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（暫定値）

●印：2012年1月～2015年7月12日の震源

●印：2015年7月13日～7月14日12時の震源

十印：地震観測点

- ・ポンマチネシリ火口のやや深いところの地震が増加しています。

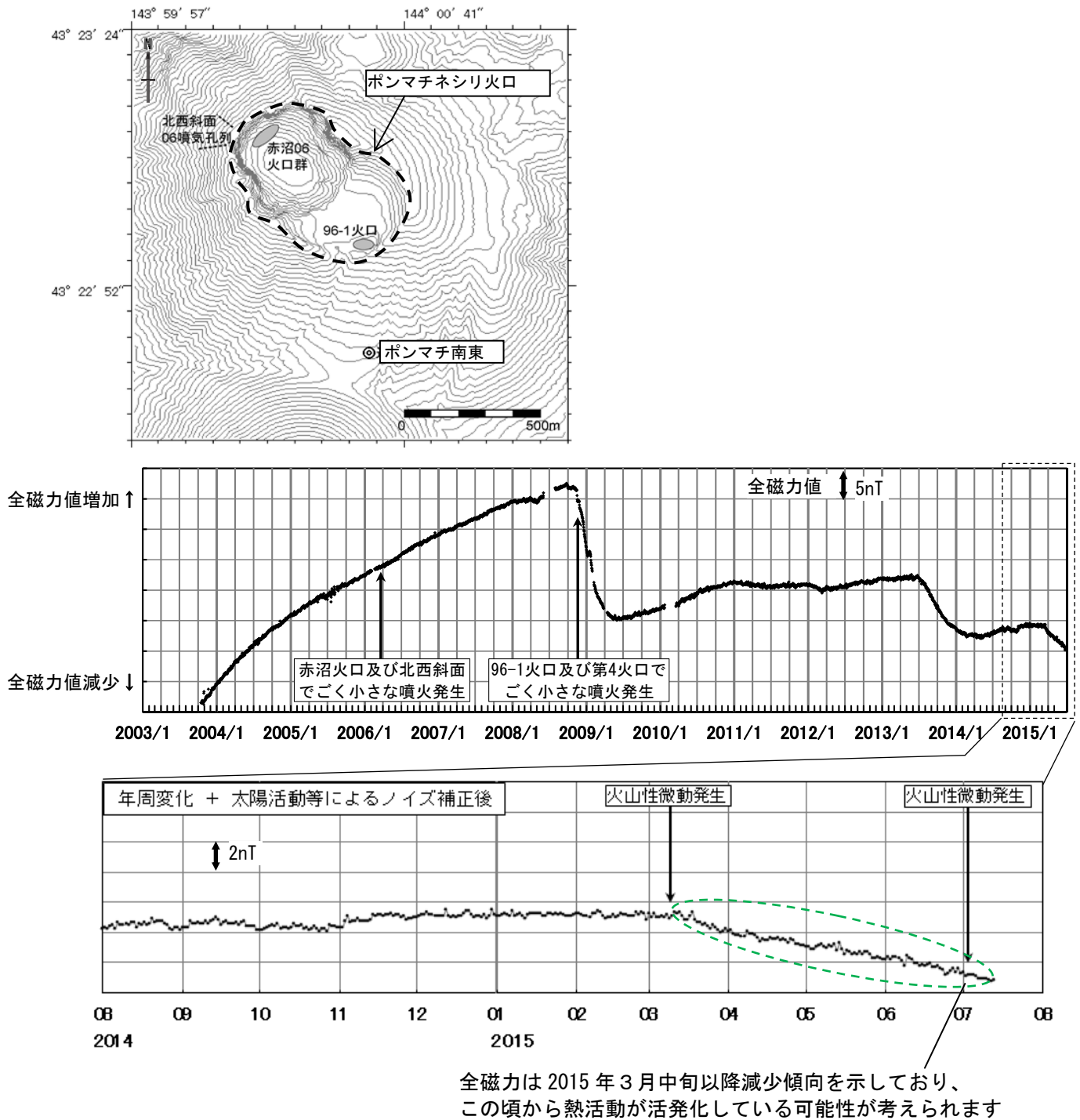


図 5 雌阿寒岳 全磁力連続観測点ポンマチ南東（上図中◎）の全磁力値変化

上図：2003年10月16日～2015年6月29日

下図：2014年8月1日～2015年7月13日

・上のグラフでの空白部分は欠測期間です